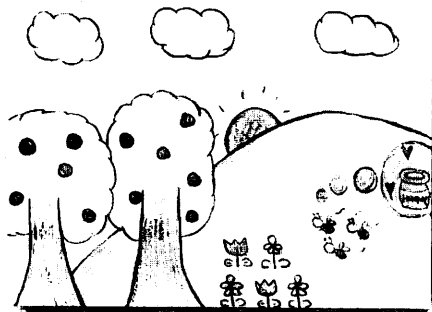


ともだち 歌おうよ!

豊中少年少女合唱団

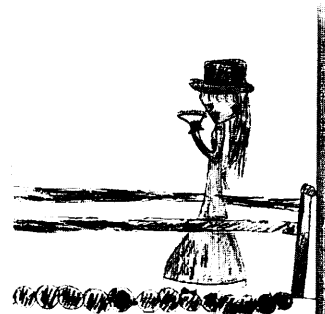
第4回定期演奏会



セビーリャ風の小さな歌



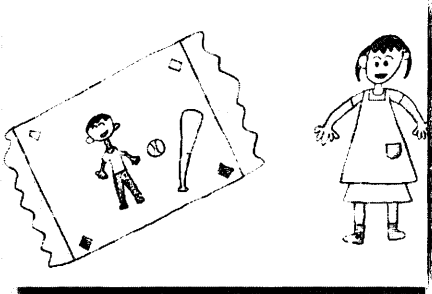
委嘱初演
こおろぎの歌



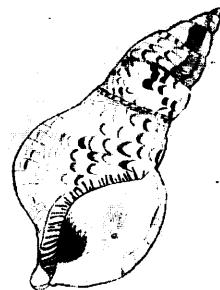
ヨーロッパの中国の歌



とかげの歌



とんまな歌



ほら貝

2006年5月13日（土）14時開演

アクア文化ホール

後援 豊中市 豊中市教育委員会 豊中市合唱協会
大阪府合唱連盟 日本合唱指揮者協会 JCDA

ごあいさつ

本日はお忙しい中、豊中少年少女合唱団（豊少）の第4回定期演奏会にお越しくださり、誠にありがとうございます。

2001年に産声をあげた豊少も、おかげさまで今年は創立5周年を迎え、当初は10名足らずだった団員も、現在は45名を有する児童合唱団になりました。

豊少は次の3つを基本において活動しております。

- ① 私たちの心を豊かにしてくれる“本物”の歌を歌います
- ② 豊中混声、ママス&パパスなど、大人とも一緒に歌います
- ③ 音楽的に充実していて、それでいて歌いやすい曲を委嘱していきます

これらに徹底的にこだわってきたからこそ、今日の豊少があるのではないかと考えております。

今回のプログラムも、私達なりに「これぞ本物」と厳選したものであり、子ども達はこれらの曲から実に多くのことを学び、曲に育てられてきました。

また、大人と一緒に歌うことを重視している児童合唱団は、おそらく全国的に見ても極めて珍しい存在であり、特に伝統ある「豊中混声合唱団」（豊混）との相互交流は大きな成果をあげており、各方面からの注目を集めています。

委嘱活動については、これまでに萩京子作曲「ファールさん」（2004年）、山岸徹作曲「大阪のわらべ歌」（2005年）という名曲を世に送り出してきましたが、今年は、日本のみならず世界的にも注目されている寺嶋陸也さんに、これまた実に素晴らしい曲を書いていただくことができました。

また寺嶋さんはピアニストとしても屈指の実力派であるので、せっかくの機会だからと、大胆にもピアノ伴奏をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。ご厚意にただただ感謝するばかりです。

子ども達は今日の演奏会のために、それぞれが一生懸命、練習してきました。まだまだお聞き苦しい点も多々あるかと思いますが、子ども達の精一杯の取り組みの成果を、大きな心で受けとめてやっていただけると幸いです。どうか、最後までごゆっくりお聴きくださいませ。

また引き続き、今後ともご支援の程、心よりお願い申し上げます。

豊中少年少女合唱団 指揮者 西岡茂樹



寺嶋陸也（てらしま りくや／Rikuya Terashima）

今回、初めて演奏会で共演させていただけることになりました。

豊中少年少女合唱団のために新しく作った曲と一緒に演奏できる事はもちろん、私が以前に子どもの詩に作曲したのもあわせて聴いていただけることは、とても嬉しいです。

1964年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での演奏や、97年東京都現代美術館でのポンピドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、2003年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価された。作曲のほか、ピアノの演奏や指揮、音楽祭の音楽監督など、活動は多方面にわたる。オペラ『ガリレイの生涯』『末摘花』、合唱ファンタジア『オホホ島奇譚』、ヴォードヴィル『タバコの害について』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』（神奈川フィルハーモニー管弦楽団委嘱）、オーボエ・三味線と打楽器のための『異郷の景色』（北九州市立響ホールフェスティバル委嘱）、古代復元楽器のための『大陸・半島・島』（国立劇場委嘱）、『詩編第49番』（オックスフォード大学モードリン・カレッジ聖歌隊委嘱）、朗読と箏、室内管弦楽のための『貝の火』など作品多数。「大陸・半島・島/寺嶋陸也作品集」（ALCD-9026）、「二月から十一月への愛のうた（栗山文昭の芸術2/寺嶋陸也作品集）」（VICS-61092）その他室内楽や歌曲のピアノなど、多くのCDがある。

作品はこれまで国内はもとよりイタリア、イギリス、フランス、オランダ、アメリカ合衆国などでも演奏されている。

ホームページ <http://www.gregorio.jp/terashima/>



（Photo 渡辺力）

プログラム

指揮 西岡茂樹

豊中少年少女合唱団・団歌

作詩・作曲 三善 晃

I 矢田部宏 小品集 ～ 新改訂版初演 ～

ピアノ 西岡恵子

- ・ ころっていいな
- ・ コスモスの花

作詞 矢田部誠子
作詞 中村正極

作曲 矢田部宏
作曲 矢田部宏

II ファーブルさん 作詩 長田 弘 ～ 2004年豊中少年少女合唱団委嘱曲 ～

作曲 萩 京子

- ・ I
- ・ II
- ・ III
- ・ IV
- ・ V

ピアノ 西岡恵子
リトグラフ 白木絵美、村田佳生
鍵盤ハーモニカ 大竹麻知子 (マヌ)

—— インターミッション ——

III 子供と大人が共に歌う

ピアノ 山岸陽子
賛助出演 豊中混声合唱団
ママス&パパス

- インドネシアの合唱曲
- ・ Gai Bintang (星をつかもう)
 - ・ Mouthing the Gamelan (口ガムラン)

日本の新しい合唱曲

- ・ おわりのない海
- ・ 一本の木の下で

作詩 工藤直子
作詞 朝比奈尚行

作曲 松下 耕
作曲 萩 京子

IV こどもの季節

作曲・ピアノ 寺嶋陸也

ジュニアグループの歌声

- ・ はやくはやく
- ・ おへそから

作詩 さとう正みち
作詩 太田靖子

シニアグループの歌声

- ・ 風の祭り
- ・ 春の足音

作詩 小川志歩
作詩 道仏さき子

V 児童合唱とピアノのための こおろぎは歌う

～ 2006年豊中少年少女合唱団委嘱曲 世界初演 ～

詩 ガルシーヤ・ロルカ 訳・作曲・ピアノ 寺嶋陸也

- ・ ヨーロッパの中国の歌
- ・ セビーリャ風の小さな歌
- ・ ほら貝
- ・ とかげの歌
- ・ とんまな歌

プログラムノート

I 矢田部宏 小品集

昨年の11月27日、東豊中聖ミカエル教会のチャペルコンサートにおいて、矢田部宏作曲「クリスマスカンタータ「主はキリストの光を」」を歌いましたが、その録音をお聴きくださった矢田部先生は、豊少のことを高く評価してくださいました。そしてこの春、何曲かの合唱作品を改訂され、その楽譜を頂戴することができました。

「主はキリストの光を」は天衣無縫のような味わいでしたが、これらの小品集もとても自然で暖かく、どこかとても懐かしい感じがいたします。子ども達も、たいへん気に入っているようです。たくさん楽譜をお送り頂いたのですが、練習時間の都合もあり、今日は、その中から「こころっていいな」（1970年作曲）と「コスモスの花」（1961年作曲）の2曲をお聴きいただきます。

II ファーブルさん

豊中少年少女合唱団の2004年度の委嘱曲です。萩京子さんは、子ども達のために、素晴らしい試練を与えてくださいました。全曲で25分近くかかるこの大曲は、美しく深いことばの連続です。子ども達は、これからの人生において何度何度も繰り返し歌うことにより、その意味をかみしめていくに違いありません。

去る3月5日、いたみホールにて開催された「萩京子個展～新しい合唱音楽の姿を求めて～」において、萩さんご自身のピアノにより全曲再演を果たしました。今日は3度目ということになりますが、より豊かな演奏になることを願っています。

『ファーブルさん』について

萩 京子

なにかのきっかけでファーブルの心に触れると、人はファーブルを忘れることができなくなります。『ファーブルさん』の詩人、長田弘さんもそのひとりだと思います。かくいう私もそのひとりです。ファーブルは大きな人間ですね。今はもう、あまりいなくなってしまったスケールの大きな人間です。科学者の目と、詩人の心を持っています。粘り強く、誇り高い心を持ったファーブル。小さな虫たちを見つめつづけた人、ファーブルに思いを馳せると、無限の時間を感じます。

長田弘さんの『ファーブルさん』は、口当たりのいい詩ではありません。やさしさと攻撃性を秘めていて、4行ずつお行儀良く並んでいる字の隙間から、「いま」という時代をにらんで、20世紀に反省を促しています。そして「いま」はもう、ファーブルさんから遠く離れた21世紀になってしまいました。

豊中少年少女合唱団のみなさんのために、どんな詩を選んだらいいのだろう、と、歌にするための詩を探しているとき、この『ファーブルさん』が気になり始め、いくらなんでもこの詩は手ごわいと思いながらも、この詩に決めました。

小さなみなさんには、なにを言っているのか、すぐにはわからないところもあるでしょう。でもいつか、なにかのはずみに、ひとつのフレーズが心の中で立ち上がってくるときがあるはず。「じぶんの人生はじぶんできちんとつかわなければならない」とか、「理解するとは、はげしい共感によって相手にむすびつくこと。」とか、「この地上で、生きる理由と究極の目的を じぶんのうちにしかもたないものなんてない」とか、・・・・あぁ、なんて歌にくいことでしょう！でも、深いことばです。

ファーブルへの思いと、詩への共感から出発しましたが、歌って楽しく、聴いて楽しいものであってほしいと思って作曲しました。小さな虫たちの生きるリズム、そのさまざまな彩りを感じていただければと思います。

(2004年3月20日(土)第2回定期演奏会プログラムより転載)

III 子供と大人が共に歌う

豊少定演の名物、子供と大人が共に歌うステージです。

まず最初の2曲は、インドネシアの合唱曲。豊少の有志と豊混の有志の約30名で、去る4月30日、「東京カンタート」と呼ばれる合唱の祭典で歌って大評判となった曲です。

インドネシアは17,508もの島々から成り立っており、言語も宗教も人種もさまざま、まさにモザイクのような国です。そしてそこにはさまざまな伝統芸能が息づき、それに根ざした現代の芸術活動が展開されています。

1曲目の「Gai Bintang」は、ジャワ島の北東に位置するマドゥーラ島の民謡で子供の遊び歌です。夜空に輝く星に手を伸ばし、月を引っぱり下ろそう、と歌われます。

2曲目の「Mouthing the gamelan」は、^{くち}ガムランの邦題が示すように、インドネシアの打楽器ガムランの音を人間の声でまねて歌います。作曲者のスラムット・シュークルさんは、インドネシアの現代音楽の旗手で、1939年生まれ（！？）とのこと。楽譜は五線譜ではなく図形楽譜です。

続いて、豊少保護者有志で構成される「ママス&パパス」および豊混と共に、子供と大人が共に歌うために作曲された「おわりのない海」と「一本の木の下で」を大合唱します。

「おわりのない海」は、元来、混声合唱曲と女声合唱曲が存在していたのですが、昨年、枚方市合唱協会が、子供と大人が共に歌えるバージョンを松下耕さんに委嘱したことにより誕生しました。

また「一本の木の下で」は、前述の「萩京子個展」の合同合唱用に、朝比奈尚行さんに詩を書き下ろしていただき、萩京子さんが作曲されたものです。「（朝比奈さんは）今回の、こどもから大人まで幅広い年齢の人たちが一緒に歌えるものを、というこちらの願いに、素晴らしい詩で答えてくださいました。『一本の木』から物語が始まります。そして最後に、「ぼくはゆっくりきみの方へあるき出す」。わたしは、子供たちにその最後の一行を託しました。」と萩さんは書いておられます。

Ⅳ こどもの季節

せっかく寺嶋陸也さんに来ていただくのだから、ということで欲張って、寺嶋さんの別の児童合唱曲も歌わせていただくことにしました。

「こどもの季節」の詩は、すべて北海道十勝の小中学生の詩です。寺嶋さんは「これらの詩には、そのままなさが、なんと素朴で美しい言葉となって結晶していることでしょう。私はふだんから、これらの詩がそうであるように、シンプルで、しかも新鮮な曲を作りたいと願っているのですが、この曲集がもしもそのように受け取っていただけるなら、作曲者としてそれにまさる喜びはありません。」と書いておられますが、まさにどの曲も、人間と自然の息吹が実に美しく結晶しています。

たくさんある曲の中から、今日は、まず小学校5年生以下のジュニアグループにより「はやくはやく」と「おへそからめがでたら」、小学校6年生以上のシニアグループにより「風の祭り」と「春の足音」の2曲を、作曲者ご自身のピアノ伴奏によりお聴きいただきます。

Ⅴ 児童合唱とピアノのための こおろぎは歌う

『力量のない児童合唱団でも歌える「高い音楽性」と「深い内容」をもった児童合唱曲』をお願いしたところ、ロルカの詩を自らが訳されて「こおろぎの歌」という素敵な曲を作ってくださいました。

寺嶋さんは、ロルカという詩人に強く惹かれておられるようで、これまでたびたび作曲されていますが、児童合唱のための曲というのは初めてだそうです。

ロルカという詩人がもつ不思議な魅力が、とても多彩で美しく、そして楽しい音楽になって、子ども達なのではの表現により立ち現れます。

こおろぎは歌う

寺嶋陸也

今年は、スペインの詩人フェデリコ・ガルシア＝ロルカの没後 70 年にあたります。1898 年に生まれ、短い生涯の間に、多くの詩や劇を書き、絵を描き作曲もして、ピアニストとしても録音を残すなど、多才な芸術家であった彼は、1936 年の 8 月、スペインの内戦の混乱のなかでファシストによって捕らえられ射殺されました。

彼の残した詩や劇の多くは、彼のそんな運命を予告するような暗い雰囲気のものも多いのですが、明るい性格で人を楽しませることが大好きだった彼は、親戚や友人の子どもたちのために、口ずさみやすい詩をいくつも作りました。スペインの子どもたちは、わらべうたの節にのせてロルカのいくつかの詩を歌っているそうです。

「こおろぎは歌う」は、ロルカのそんなかわいらしい詩を日本語にして、新しくメロディーをつけたものです。「ヨーロッパの中国の歌」は中国風の音階ですが、「セビーリャ風の小さな歌」や「とんまな歌」などでは、ところどころにスペインで最も親しまれている楽器、ギターやカステネットの響きをまねするなど、スペインの音楽の特徴を取り入れています。

この一年間の活動記録

年月日	場所	タイトル	主な演奏曲目
2005年 3/19(土)	アクア文化ホール	豊少第3回 定期演奏会	山岸徹「大阪のわらべうた」委嘱初演 新実徳英「のはらうた」 松下耕「私たちの星」「うたをうたうとき」 萩京子「はじめのことば」など
3/26(土)	みつなかホール	池田北高校定期	三善晃「葉っぱのフレディ」
4/29(土)	兵庫県盲導犬 協会	国際盲導犬デー	新実徳英「のはらうた」 久石譲「トロロメドレー」
6/19(日)	貝塚コスモス シアター 大ホール	大阪府合唱祭	山岸徹「なわとび歌」「花いちもんめ」 林光「森は生きている」「十二月の歌」 松下耕「私たちの星」「うたをうたうとき」
7/2(土)	ザ・ソフォニーホール	豊混第45回定演	松下耕「私たちの星」「うたをうたうとき」
7/9(土)	アクア文化ホール	豊中市合唱の夕べ	松下耕「私たちの星」「うたをうたうとき」
8/6(土)	いずみホール	八月の祈り	尾上和彦オラトリオ「鳥の歌」
8/22(月) ～23(火)	豊中市立 少年自然の家	夏合宿	
10/8(土)	中央公民館	公民館祭り	「村まつり」「小さい秋みつけた」 萩京子作曲「ファールさん」よりⅠ、Ⅳ 「となりのトトロ」「カントリーロード」他
11/12(土)	豊中市民会館 大集会室	豊中市子供芸術祭	「やさしさにつつまれたなら」 「となりのトトロ」「カントリーロード」他
11/18(金)	千里中央セルソー 大丸ビル前 特設ステージ	エンジェルベアー がやってきた！ 点灯式	「赤鼻のトナカイ」「もろびとこぞりて」「ひいらぎかざろう」「天使のうた」「三人の博士」 「あら野のはてに」「きよしこの夜」
11/27(日)	東豊中聖ミカ エル教会	チャペル コンサート	「もろびとこぞりて」「ひいらぎかざろう」 「となりのトトロ」「カントリー・ロード」他 矢田部宏 クリスマスカター「主はキリストの光を」
12/4(日)	アクア文化ホール	豊中市合唱祭	三善晃「雪の窓辺で」(ママス&パパスと合同)
12/11(土)	大阪YWCA	YWCA クリスマス会	「もろびとこぞりて」「ひいらぎかざろう」 「荒野のはてに」「となりのトトロ」「さんぽ」
12/23(金)	長興寺会館	豊少クリスマス会	
2005年 2/5(日)	高槻現代劇場 中ホール	ミュージック・ラザ ー 2006	萩京子「ファールさんⅡ」 三善晃「豊中少年少女合唱団・団歌」
3/5(日)	いたみホール	萩京子個展	萩京子「ファールさん」「一本の木の下で」
3/31(金) ～4/1(土)	豊中市立 少年自然の家	春合宿	
4/3(月)	豊中池田ケー ブルテレビ	エキスタ集まれ！ (生放送)	三善晃「豊中少年少女合唱団・団歌」 寺嶋陸也「春の足音」他

今後の活動予定

年月日	場所	タイトル	主な演奏曲目
6/18(日)	狭山市 SAYAKAホール	大阪府合唱祭	寺嶋陸也「こおろぎは歌う」より 「おわりのない海」「一本の木の下で」
7/1(土)	ザ・ソフォニーホール	豊混第46回定演	「おわりのない海」「一本の木の下で」
7/8(土)	アクア文化ホール	豊中市合唱の夕べ	寺嶋陸也「こおろぎは歌う」より 「おわりのない海」「一本の木の下で」
8月		夏合宿	
10月中旬	中央公民館	公民館祭り	
12/3(日)	アクア文化ホール	豊中市合唱祭	
12/10(日)	東豊中聖ミカ エル教会	チャペル コンサート	

指揮 西岡茂樹（にしおか しげき/Shigeki Nishioka）

1955年兵庫県生まれ。高校時代から合唱と指揮を始め、その後、作曲家の三善晃氏、高田三郎氏、柴田南雄氏、さらに合唱指揮者の田中信昭氏、須賀敬一氏との出会いと師事により合唱観と活動軸を形成してきた。指揮活動の最大の関心は、『世界に誇ることができる日本固有の合唱芸術の創造』にあり、主として現代日本の作家の意欲的な作品をとりあげ続けている。これまでに三善晃「伝説」・「詩の歌（女声篇）」、池辺晋一郎「海の墓標」、鈴木英明「銀の矢ふれふれ」、高田三郎「青森の子守歌・山形の子守歌」、萩京子「地図にない川」・「ファールさん」・「亡命地からの手紙/道しるべ」、山岸徹「大阪の子守歌」等を委嘱初演している。また近年、『大人と子供が共に歌い合う合唱』にも注力しており、2003年には、大阪府合唱連盟の委嘱による三善晃作詩・作曲「葉っぱのフレディ」をプロデュースし、ジュニア170名、大人400名の合同合唱団で初演している。

現在、豊中混声合唱団、豊中少年少女合唱団、女声合唱団あい、女声合唱アルモニレジュイ等で指揮を務める他、大学や一般合唱団への客演も多く、幼稚園から熟年までの幅広い年齢層をカバーしている。

大阪府合唱連盟理事、日本合唱指揮者協会会員、21世紀の合唱を考える会「音楽樹」会員、奈良産業大学教授。
E-mail shigeki.nishioka@nifty.ne.jp URL <http://www.nara-su.ac.jp/~nishioka/music.htm>

ピアノ&トレーナー 西岡恵子（にしおか けいこ/Keiko Nishioka）

中学・高校で合唱を経験し、神戸女学院大学で声楽を専攻。卒業後、ヤマハ音楽教室 講師、自宅でピアノ指導などを行うが、合唱が恋しくなり豊中混声合唱団に入団、パートリーダーなどを務める。昨年より、豊中混声ヴォイストレーナーの児玉祐子先生に師事、新たな音楽の世界に踏み出そうと試行錯誤の毎日...

ピアノ 山岸陽子（やまぎし ようこ/Yoko Yamagishi）

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業後、渡独。ケルン音楽大学ヴァーナル校、フライブルク音楽大学大学院室内学科にてディプロムを得て卒業。故梅田志づ、宇野紀子、山上明美、S.プロティッチ、H.ボーエ、M.パウマンの各氏に師事。ドイツにて、メニューイン財団“ライブ・ミュージック・ナウ”に所属。1999年、ドイツのシュタウフェン音楽祭に出演。2000年、2002年、2003年にジョイントコンサートを開催。現在、女声合唱アルモニレジュイ、豊中少年少女合唱団の伴奏を務める等、アンサンブル奏者として、室内楽、伴奏の分野で活躍。2003年には三善晃作曲“葉っぱのフレディ”、萩京子作曲“地図にない川”初演伴奏を務める。川西市のマタニティコンサートや豊中市民病院にてサロンコンサートに定期的に出演。2004年まで神戸女子短期大学に勤務。川西音楽家協会会員。最近は三ツ石潤司氏にレッスンを受ける。

リコーダー 白木絵美（しらき えみ/Emi Shiraki）

9歳より豊中市少年合奏団（リコーダーオーケストラ）においてリコーダーを始める。相愛大学音楽学部器楽学科古楽器専攻（リコーダー）卒業。リコーダーを小林達夫、若林正史、藤田隆、花岡和生の各氏に師事。室内楽・通奏低音を藤田隆、坂本利文、青木好美各氏に指導を受ける。また、講習会などに参加し、ジョン・タイソン、ワルター・ファン・ハウヴェ各氏のレッスンを受ける。これまで、同大学の卒業演奏会、新人演奏会、バロックオペラ、現代バレエ公演等の演奏会に多数出演。また、2005年度大阪府アーティストと子どもの文化体験交流助成事業「むかしむかしの音楽会」において古楽器の演奏と参加型の音楽会を主宰。

第14回西日本リコーダーコンクール（アンサンブル）において最優秀賞を受賞。

第18回山梨古楽コンクール入選。

現在は関西を中心にソロ、室内楽等の演奏活動を行っている。豊中リコーダー合奏団指導者。

リコーダー 村田佳生（むらた よしお/Yoshio Murata）

大阪音楽大学楽理専攻卒業。桐朋学園大学カレッジ・ディプロマコース古楽器専攻に2年間在籍後、オランダに留学。アムステルダム音楽院をディプロマを得て卒業。これまでに音楽学を高橋浩子、本岡浩子、網干毅の各氏に、リコーダーを弥永寿子、藤田隆、花岡和生、サスキア・コーレンの各氏に師事。またジョン・タイソン、山岡重治、コンラート・シュタインマン、ジャネット・ファン・ヴィンガーデン各氏のレッスンを受ける。これまで、コレギウム・ムジクム・テレマンと共演したほか、Open Blokfluitendagen（オランダ・ユトレヒト）において美術館巡りコンサートに出演するなどした。昨年帰国し、関西を拠点として活動をはじめている。レパートリーの中心はルネサンス音楽からバロック音楽だが、現代音楽の演奏にも積極的に取り組んでいる。また演奏会プログラム解説の執筆なども手がけている。

メンバーからのメッセージ（五十音順）

秋場莉奈（小3）

わたしは今回がはじめてのていきえんそう会です。
わたしが一番好きな歌は「こおろぎは歌う」の「とかげの歌」です。でも「ほら貝」も好きです。
心をこめて歌うので、さい後まで聞いてください！

浅野紗也賀（中1）

今回の定演で一番好きな曲は、「こおろぎは歌う」です。
その中でも「セビーリャ風の小さな歌」・「とかげの歌」・「とんまな歌」は、のりが良く特に歌っていて楽しい曲です。私は合唱団に入って5年目ですが、これからもどんどん色々な歌や、オリジナル曲を歌っていきたいです。一生懸命頑張りますので、皆様もどうぞお楽しみください！

浅野真利奈（小6）

今回の定期演奏会で歌う、私の一番好きな曲は「こおろぎは歌う」の「ほら貝・とかげの歌・とんまな歌」です。何故なら、「ほら貝」は音がとてもきれいで、その後の2曲は元気に歌えるのが楽しいからです。
高学年だけで歌う曲は、音程をとるのがとても難しかったけれど、たくさん練習するうち自信ができました。一生懸命頑張りますので皆さん聴いてください。

池田綾奈（小6）

何曲も歌いますが、その中で私は「こどもの季節」という曲がとても好きです。高学年と低学年に分かれて歌います。なぜ好きかというと、この曲には「やさしさ」があるからだと思います。この曲を歌う時、私は「やさしさ」や「なつかしさ」を感じます。ぜひ聞いてください。

池田穂恵（小6）

私は定期演奏会に初めて出るのでと～ってもキンチョウしています。間違ってもいいけど絶対楽しい演奏会なので最後まで聞いてください。今日歌う曲の中で「こおろぎは歌う」が好きです。なつかしい感じがするし、少しむずかしいから歌いがいいがあってとても好きです。

今西 梓（中2）

私は、今回2回目の定期演奏会です。今回、私たちが、世界で始めて演奏する「こおろぎは歌う」は、スペインのきれいな景色や、トカゲが出てきたり、とてもきれいで、おもしろくて、楽しい曲だと、思います。他にも、ジュニアとシニアに分かれて歌うステージなど、今回の定期演奏会も、とても楽しみです。一生懸命頑張ります。

岩田知佳（小6）

私は、豊少のみんなと歌を歌うことが大好きです♪ 私が一番好きな曲は、「おわりのない海」です。大人の人と一緒に歌うと、ハーモニーがとてもきれいだからです。今回は、「こおろぎは歌う」を初演します。難しいけどおもしろい曲です。今日のために、一生懸命練習しました。心をこめて歌うので、最後まで楽しんで聴いてください♪

岩田知紗（小4）

私の好きな曲は『コスモスの花』と『とかげの歌』です♪ いろいろな曲を覚えるのに、すごく時間がかかったけど、歌を歌うのが大好きです（●^v^●）『こおろぎは歌う』

は、意味があんまりわからなかったけど、歌っていると、だんだんわかってきました！
これからもいっぱい、歌を歌いたいです。

内賀嶋潤（小6）

数少ない男軍団の一人、内賀嶋潤です。ぼくの趣味は、だじゃれを開発することです。おすすめのだじゃれは、『玉がたまっておったまげた！！』です。これからもどんどん開発していくつもりです。寺島先生作曲の『こおろぎは歌う』の中で一番好きな曲は『とかげの歌』です。
ぼくは男だけど一生歌い続けるぞ！！

内賀嶋仁美（中3）

私は部活・塾・合唱の両立に苦しんでいました。でも、なるべく練習に参加し、自主練も行って定演にのぞみました。今回の私の目標は『私たちも楽しむ。お客さんにも楽しんでもらえる定期演奏会にする！』です。目標達成できるように一生懸命、楽しく歌いたいと思います！！

江田果林（小4）

私は、豊少に入団してから、もうすぐ1年たちます。てい定期演奏会で歌うのは、初めてだけど、がんばります。私の好きな曲は、寺嶋陸也先生が作曲された「こおろぎは歌う」の中の「ほら貝」です。寺嶋先生がピアノをひいて下さるのもとても楽しみです。どの曲も心をこめて歌います。

大澤菜月（小4）

私が好きな歌は「ファールさん」です。ファールさんのやさしい気持ちが伝わってくるからです。この演奏会は私にとっては2回目の定期演奏会です。合唱団には友達もいるし、歌も上手になるし、そしていい歌にいっぱい出会えるので、これからもずっと続けていきたいです。

大竹沙結梨（小4）

私は1年生のはじめから入団しています。私は歌が大好きだし、みんなとすぐなかよしで、楽しいです。私が好きな歌は「団歌」と「こころっていいな」です。「ほら貝」の「ho」のハーモニーがとてもきれいです。「とかげの歌」のはじめの所がとても楽しいです。
いい歌ばかりなので、みなさんどうぞ聞いて下さい！

大谷琴美（小6）

私は、今回で2度目の定期演奏会です。豊少で歌を歌うのは、とっても楽しいです。わたしが好きな曲は、「コスモスの花」と「風の祭り」です。2曲とも、ソプラノ・メゾ・アルトの3部のパートに分かれて歌う曲で、メロディーがとても好きでいつも口ずさんでいます。
今日は、楽しく歌いたいと思います。

大谷智美（中2）

私は今回2度目の定演です。今年は笑顔で楽しく歌えるように頑張りたいと思います。今回の定演は、寺嶋陸也さん、矢田部宏さんという2人の方々に作曲していただいた曲を初演するということや、上級生と下級生に分かれて、その年齢にあった歌を歌うというところが見所だと思います。ぜひ楽しんで聴いてください！！

大西愛恵（小4）

私は今年が初めての定期演奏会出演なのでとっても緊張しています。でも私には絶対に叶えたい願ひ事があります。その願ひ事は出来るだけたくさんの人に私達の歌を聞いてもらい、感動してもらう事です。この願ひに近づくように、練習を重ねてきました。一生懸命に歌うので聴いてください。

大橋宏輝（小3）

ぼくは、歌が大好きです。歌うと、気持ちがすっきりします。みんなと一つになって、合唱するときの楽しさを大事にして、がんばるよ。特に、“こころっていいな”は、とてもきれいな曲なので、聞いてください。

小野 楓（小5）

わたしは、今回で2回目の定期演奏会です。去年は、『ファールさん』の全曲は、歌わなかったけど、今年は、全曲歌えるので、とてもうれしいです。大人と歌う「おわりのない海」と「一本の木の下で」も歌います。大人と歌うと、とてもきれいな曲になるから大好きです。一生懸命練習したので、聴いてください。がんばります！！

小野 瞳（中2）

私は豊中少年少女合唱団定期演奏会は、2回目の参加ですが、初めて全部のステージに立てました。今回、委嘱の「こおろぎは歌う」という曲は、とても楽しい曲です。1曲1曲雰囲気違って場面がうかんでくるようです。私たちも楽しんで歌うので、皆さんも楽しんで聴いてください。

川瀬菜恵香（中1）

私は今回が初めての定期演奏会なので、とても楽しみにしています。私が1番好きな曲は“国歌”と“春の足音”です。練習はどの曲も大変だったけれど、皆で頑張ってるので聞いて下さい。

河中彩子（中2）

私は歌を歌う事も、聞くことも大好きです！！特に『こころっていいな』はメロディーも歌詞も、とてもきれいなので、歌っていてとても気持ちがいいです。『こおろぎは歌う』は、リズムが楽しい曲なのでぜひぜひ聞いてほしいです！！ 昨年の定期演奏会は出られなかったのですが、今年こそ一杯歌いたいと思います。

河中季子（高2）

私は歌を3歳から習っています。私は歌が大好きで歌っている時が一番リラックスしています。今回の演奏会は盛りだくさん！上級生・下級生に分かれてのステージはそれぞれの年齢の特徴が出ています。【こおろぎは歌う】では、歌詞とメロディーの素敵な組み合わせを私達が一生懸命伝えます。

多芸愛理（小2）

はじめてのえんそうかいでドキドキします。じょうずにうたえるかわかりませんが、がんばります。おうえんしてくださいね。

玉田真由（小5）

私の好きな曲は「こころっていいな」という曲です。とても難しかった曲は、大人と子供が共に歌う「おわりのない

海」という曲です。おもしろいなあと思う曲は、寺嶋陸也先生作曲の「はやくはやく」という曲です。「こおろぎは歌う」という曲の中にもおもしろい曲があります。どれも一生懸命練習したので今日はがんばります。

千熊啓介（中1）

4年の時からなので、定演に出るのは、3回目です。寺嶋先生の曲は、詩は外国の人で、難しいけど、歌っているうちにだんだんおもしろくなってきました。他にも、楽しい歌がたくさんあります。最後まで、ゆっくり聴いてください。

中井靖子（高3）

今年は寺嶋先生に素敵な新曲を書いていただき、それを初演できることをうれしく思います。私は「大人と子どもが共に歌う」ステージの「おわりのない海」という曲がとても好きです。一生懸命、そして楽しくうたいたいです。去年より一回り大きくなった豊少の歌声をお楽しみください。

中井 亮（小6）

ぼくは、合唱団に入って6年になります。はじめは人数が少なかったけれど、今はすごくふえました。友だちがいっぱいできて最高です。今回の演奏会で聞いてほしいのは「こおろぎは歌う」の中の「ヨーロッパの中国の歌」です。おもしろい歌詞で、歌っていると楽しいです。

西岡彩音（小3）

わたしは、きょ年、さい後のステージだけ出られなかったのですが、今年はさい後まで歌いたいです。「こころっていいな」と「コスモスの花」は、むずかしいのでとくにがんばりたいです。「こおろぎは歌う」は、さっきよくしゃの寺しま先生がひいてくれるのでうれしいです。このきょくもむずかしいのでがんばります。「はやくはやく」は、はやいのでがんばりたいです。「おへそからめがでたら」は音でいがむずかしいので、いっぱいれんしゅうします。とにかくがんばります。

西岡友樹（中1）

ぼくが一番楽しみにしているのは、「こおろぎは歌う」です。寺嶋先生が書いてくれたこの曲はおもしろく楽しい曲で、しかも先生にピアノもひいてもらうので本当に楽しみです。「ファールさん」は、前の演奏会で歌ったときよりももっとうまく歌いたいです。ほかにも、大人と歌う曲も楽しみです。今までたくさん練習してきたことを活かしてがんばります。

野路紗希（小2）

いちばん聞いて欲しい歌は春の合宿でいっぱい練習した「はやくはやく」です。聞いてください。

野路葉奈（小2）

練習をたくさんしたので、「ファールさん」がだいぶ上手に歌えるようになりました。きいてくださいね。

野添円翔（小4）

わたしは、合唱団に入って二年になります。この二年間、たくさんの曲を歌ってきました。今回は、寺嶋先生が、ピアノをひいてくれるのでうれしいです。わたしの好きな曲は、「はやくはやく」と、「おへそからめがでたら」です。今年の演奏会は去年よりもがんばって、歌います。

畠中愛莉（小5）

私はこんかいで3回目の定期演奏会です。とくに私がスキな歌は「こおろぎは歌う」です。その中でも一番スキな歌は「ほら貝」と「とかげの歌」です。「ほら貝」は、3つのパート（メゾ、ソプラノ、アルト）がすごくいいハモリになっています。「とかげの歌」はすごく私の中ではいいしょうにのこりました。とちゅうでかしや音ていをまちがえるかもしれないけど、楽しくでたらいいなあ〜とおもっています。

濱口優香（小5）

私にとって今回が3回目の定期演奏会です。私が一番好きな歌は「こおろぎはうたう」の「とかげの歌」です。「アーイ」と言う歌詞があって、そこがおもしろくて楽しく歌えるからです。今回は前回より、元気に歌うので聞いて下さい♪

福井那奈（小1）

わたしは4月で1ねんせいになりました。ていきえんそうかいにでるのは2かいめです。がっしょうで1ばんスキなきょくは、おわりのないうみです。なぜスキなのかというと、おとなとあわせてきれいだからです。きょうもがんばります。

福井里歩（小4）

私は4月で小学4年生になって、この「定期演奏会」に出るのは二回目です。私が一番お気に入りの歌は「子どもの季節」の中の「はやくはやく」と「おへそからめがでたら」の二つの詩です。なぜかという、この二つの詩は、小学1年生と2年生が作った詩で、とってもおもしろい歌だからです。・・・今日まで、私たちはいろいろな曲をいっぱい練習したので今日もがんばって歌います。ぜひ、聞いて下さい！！（^▽^）

藤原千絵（高2）

私はこの定演で楽しそうに歌っている皆をみて豊少に入ることを決めました。本当に皆歌が大好きで毎週楽しく歌っています！少しでも興味をもった小中学生の子は是非見学に来てください。私は今回学校のため最初からの出演は難しいのですがそれでも精一杯歌います。少しでも楽しい気持ちをわけることができれば嬉しいです！

前田萌衣（中1）

豊少のみんなと歌うことが大好き♪毎週土曜日の練習時間も、いつもあ〜という間に終わってしまいます。(ToT)/~~~~ 春休みの合宿では、よく食べ、よく遊び、朝も昼も夜も練習しました。だからチームワークもバッチリです！今日は寺嶋先生のピアノにあわせて、楽しく歌いたいと思います。

牧口こころ（小6）

私は2年生の時に入団しました！この4年間で団員数が2倍ほどになったのがびっくりです。人数が増え、3部合唱になって難しい時もありますが、ハーモニーが決まる

とうれいです♪今回歌う曲の中でどれも好きですが、好きな曲は大人と一緒に歌う「おわりのない海」、私の名前が歌われている「こころっていいな」、風を感じる「風の祭り」です♪聴いてね！聴いてよッ！聴いてや〜♪

村田愛子（小4）

私は合唱団が大好きです。歌は何でも好きだけど、その中でも一番好きなのは、団歌です。「こおろぎはうたう」は、豊少が初めて歌う曲なので、よくきいてください。いろいろな曲を歌っているけれど、大人と子供が歌う曲もあります。大ぜいで歌うと、とても気持ちがいいです。せいっぱいがんばるので楽しんでください。

村田咲子（小6）

私は今日をとても楽しみに待っていました。合唱は歌っているととても気持ちがいいです。特に、大人といっしょに歌う曲が大好きです。「こおろぎはうたう」は、寺嶋先生のピアノで歌えてとてもうれしいです。とてもおもしろい曲がたくさんあって練習も楽しいです。他の曲もとてもいい曲ばかりです。がんばって練習しました。豊少の歌を楽しんで聴いてください。

森 万葉（小3）

わたしは、合唱団を4年間やっています。わたしは、ピアノ、プール、合唱団をやっています。♪♪♪ わたしは、音楽がすきです。でも、学校では、一番スキなのはあんまりありません。友だちと歌をうたうのが、好きです。わたしは、いい歌が好きなので、いい歌をいっぱいがんばりたいと思います。これからがんばるぞ。

森 菜月（小5）

わたしは、5年生です。バスケットと合唱♪をやっています。どちらも1人でやるのではなく、みんなで力を合わせてやるところが好きです！歌ったり、遊んだり、みんな仲よし合唱団です！「第4回ていきえんそう会」の見どころはどれもですが、お客様の前で初めて歌う「こおろぎは歌う」です！お楽しみに！

矢熊 光（小5）

合唱団に入って、もうすぐ4年になります。今日、歌う曲の中で一番気に入ってる曲は、「コスモスの花」です。全部の曲を一生けん命歌いますので、最後まで聞いてください。私たちの歌を聞いて、新しい豊少の仲間になってくれる人が、たくさんできるといいです。

和田彩佳（中3）

中学3年生です。今回の定期演奏会の歌は、やはり前より難しく、練習が大変でした。『こおろぎは歌う』は、キレイな歌だけどリズムが難しくてなかなか上手にいかなかったです。『こおろぎは歌う』の他にも『となりのトトロ』など、皆さんが知っている歌も歌います。どの歌も私も皆大好きです。この気持ちが届くように、一生懸命歌うので聞いて下さい☆★



ソプラノ

内賀島 仁美	中3	岩田 知紗	小4
小野 瞳	中2	江田 果林	小4
河中 彩子	中2	大西 愛恵	小4
浅野 紗也賀	中1	野添 円翔	小4
千熊 啓介	中1	村田 愛子	小4
西岡 友樹	中1	秋場 莉奈	小3
池田 穂恵	小6	大橋 宏輝	小3
岩田 知佳	小6	多芸 愛理	小2
村田 咲子	小6	野路 紗希	小2
小野 楓	小5	野路 葉奈	小2
玉田 真由	小5		

メソソプラノ

河中 季子	高2
藤原 千絵	高2
和田 彩佳	中3
池田 綾奈	小6
内賀島 潤	小6
大谷 琴美	小6
畠中 愛莉	小5
濱口 優香	小5
森 菜月	小5
矢熊 光	小5
大澤 菜月	小4
大竹 沙結梨	小4
森 万葉	小3



アルト

中井 靖子	高3
今西 梓	中2
大谷 智美	中2
川瀬 菜恵香	中1
前田 萌衣	中1
浅野 真利奈	小6
中井 亮	小6
牧口 ころ	小6
福井 里歩	小4
西岡 彩音	小3
福井 那奈	小1



団員募集！一緒に歌おう



豊中少年少女合唱団

練習日：毎週土曜日 13時～16時

場所：中央公民館ほか

連絡先：西岡（0797-88-1890）、牧口（06-6858-0252）

E-mail：keiko_nishioka@jttk.zaq.ne.jp

ホームページ：http://homepage1.nifty.com/nishioka/toyo/

定期演奏会後の今が一番入団に
適した時期です
小学生から中学生の皆さん、
さあ、いっしょに歌いましょう！

豊中混声合唱団

練習日：毎週土曜日 18時～21時

偶数火曜日 19時～21時

場所：中央公民館ほか

連絡先：玉山（090-4036-5753）

E-mail：塩崎 k-shio@psn.ne.jp

ホームページ：http://www.psn.or.jp/~k-shio/toyokon/toyokon.htm

創立60年を越える歴史ある合唱団です
全日本合唱コンクールで幾度も金賞受賞
CDレコーディングも多数
入団時の年齢が18才～45才の方が対象
となります



歌詞集

こころっていいな

矢田部誠子

こころっていいな
こころってふしぎだな
大きい山や かがやく海が
ぼくのこころのなかにある
こころのなかの海山が
おーいって呼ぶと
おーいって答える
こころってふしぎだな
こころっていいな

こころっていいな
こころってすてきだよ
去年も咲いた 日まわり草が
ぼくのこころをよろこばす
こころのなかの日まわりが
あのねって呼ぶと
なーいって答える
こころってすてきだよ
こころっていいな

こころっていいな
こころってなつかしい
生きてはいない じいやとばあや
ぼくのこころで笑ってる
こころのなかのその顔が
あのねって呼ぶと
はーいって答える
こころってなつかしい
こころっていいな

コスモスの花

中村正極

コスモスに風が吹きます
海辺に吹く
遠い海の風です
コスモスに射す 秋の陽は
あわすごます
コスモスの花が 揺れます
道のずっと向こうへ
さよなら
さよならをして行くひとのように
コスモスの花が 海の風に吹かれて
揺れている畑ぞいの道でした

ファールさん

長田 弘

I

ファールさんは勲章や肩書をきらった、権威も。
ペコペコしたり無理を我慢したりは、真ッ平だった。
シルクハットは、逆さまにして、メボウキを植えた。
それから、一おもいに、足で踏みつぶした。

なくてならないものは、自由と、静かな時間と、
清潔なリンネルのシャツと、
ヒースでつくったパイプ。
毎日、青空の下で、おもいきり精神を働かすのだ。
じぶんの人生はじぶんできちんと
つかわねばならない。

黒い大きなフェルトの帽子の下に、
しっかりとすわった深く澄みきった目。
ファールさんは、怠けることを知らなかった。
黙って考え、黙って仕事をし、慎ましやかに生きた。

目を開けて、見るだけでよかった。
耳を澄ませて、聴くだけでよかった。
どこにでもない。この世の目ざましい真実は、
いつでも目のまえの、ありふれた光景のなかにある。

II

目立たない虫、目には見えないような虫、
とるにたらない虫、つまらない虫、
みにくい虫、いやしい虫、くだらない虫。
ファールさんは、小さな虫たちを愛した。

生きるように生きる小さな虫たちを愛した。
虫たちは、精一杯、いま、ここを生きて、
力をつくして、じぶんの務めをなしとげる。
じぶんでない生きかたなんかけっしてしない。

みずからすることをする、ただそれだけだ。
生命というのは、すべて完全無欠だ、
クソムシだろうと、人間だろうと。
世の中に無意味なものは、何一つない。

偉大とされるものが、偉大なのではない。
美しいとされるものが、美しいのではない。
最小ノモノニモ、最大ノ驚異アリ。
ファールさんは、小さな虫たちを愛した。

III

どんな王宮だって、とファールさんはいった。
優美さにおいて精妙さにおいて、一匹の
カタツムリの殻に、建築として到底およばない。
この世のほんとうの巨匠は、人間じゃない。

この地球の上で、とファーブルさんはいった。
人間はまだ、しわくちやの下書きにすぎない。
われわれ貧しい人間にさずかったもののうちで、
いちばん人間らしいものとは、何だろうか。

「なぜ」という問い、とファーブルさんはいった。
ものの不思議をたずね、辛抱よく考えぬくこと。
探究は、たくましい頭を必要とする労働だ。
耳で考え、目で考え、足で考え、手で考えるのだ。

理解するとは、とファーブルさんはいった。
はげしい共感によって相手にむすびつくこと。
自然という汲めどつきせぬ一冊の本を読むには、
まず身をかがめなければいけない。

IV

狭いほうからしか世界を見ない人たちの、
とげとげしいまるで人を罵るような言葉。
呪文のような用語や七むつかしい言いまわし。
ファーブルさんは、お高い言葉には背をむけた。

言葉は、きめの細かな、単純な言葉がいい。
古い方言や諺や日用品のようによくなじんだ言葉。
すっきり筋のとあったものの言いあらわしかた。
言いたいことを、目に見えるように書くのだ。

いつもクルミの木のちいさな粗末な机で書いた。
「ペンには、釣り針についたエサのように、
血まみれの、魂のきれはしがついている」
いつも血の通った言葉でしか書かなかった。

仕事に疲れた夜は、ベッドで、好きな本を読んだ。
つねに素晴らしい楽しみだったウェルギリウス。
ラブレーは変わらぬ友人だった。ミシュレも。
純真なラ・フォンテーヌの一の弟子だった。

V

花々のあいだ、青葉のなか、暗い木の枝。
石ころだらけの狭い山道、日に照らされた荒地。
高い草、深い沈黙につつまれた野原。
虫の羽音がさかんに暖かな空気を震わせている。

何一つ、孤立したものはない。
この地上で、生きる理由と究極の目的を
じぶんのうちにしかもたないものなんてない。
ものみな、無限のかかわりを生きているのだ。

有頂天のトカゲ、セミのジージー鳴く声、
飛ぶクモ、コウロギの悲しげな声、笑う北風。
ファーブルさんが語ったのは、新聞の
朝刊がけっして語らないような世界の言葉だ。

死がきて、ファーブルさんのたくましい頭から

最後に、黒いおおきなフェルトの帽子をとった。
そして、二十世紀の戦争の時代がのこった、
ファーブルさんの穏やかな死のあとに。

おわりのない海

工藤直子

ひとの心にうまれた
塩からい海は
あふれつづけて おわりがない
海はすべてを溶かしこみ
海は 海のみである

喜びのしづきは溶けて 海になる
悲しみの固まりも溶けて 海になる
おどろきも おそれも
恥じらいも 誇りも
すべては溶けて海になるばかり

ひとは ふところの
そんな海を のぞきこむと
なぜか ほっとする
なぜか ほっとして 思う
《また あした》

一本の木の下で

朝比奈尚行

一本の木の下で
きみはなにか歌のようなものを口ずさんでいる
ぼくはそれを遠くから見つめている

一本の木と
きみと
ぼくとが登場する
新しい物語をつくろう

ぼくはセールスマンだ
きみは動物園の飼育係だ

きみはこどものキリンに食べさせるため
高い木にハシゴをかけて葉っぱを摘んでいる
ぼくはセールスに疲れてライオンの檻の前で
ソフトクリームをなめている
ぼくたちは出会えない

リセット

ぼくは飛行士だ
きみは美術学校の学生だ

きみは砂漠で
最後に残った一本の木が
倒れてゆくその長くて短い時間を

キャンパスに描き込んでいる
ぼくは墜落した友だちの飛行機を探して
砂漠の上を飛んでいる
ぼくたちは出会えない

リセット

ぼくはクラゲだ
きみはイソギンチャクだ

きみは珊瑚の木の根っこにしがみつき
荒れた海の流れに耐えている
ぼくは行く先もわからずただ激しい海流に
身を任せている
ぼくたちは出会えない

リセット

ぼくは闇だ
きみはヒカリだ

ぼくの中で一本の木はその形を
露わにすることはない
きみの中で木は全てをさらけ出す
でもそこにぼくはいない
ぼくたちは出会えない

リセット

ぼくはぼくだ
きみはきみだ

一本の木の下で
きみはなにか歌のようなものを口ずさんでいる
ぼくはそれを遠くから見つめている
物語はやめよう
今を今のまま続けよう
ぼくはゆっくりきみの方へ歩き出す

トゥービーコンティニユード
トゥービーコンティニユード

はやくはやく

さとう正みち（柏小学校1年生）

あさ、はやく、おきなさい。
はやく、したくしなさい。
はやく、かおあらいなさい。
はやく、ごはんたべなさい。
はやく、がっこう、いきなさい。
はやく、はやく、はやく。
ぼくは、一日じゅうおかあさんから
はやくだけをいわれる。

はやくさん、たまに
ゆっくりやすみなさいといってよ。

おへそからめがでたら

太田靖子（稲田小学校2年生）

おへそから
めがでたら
たいへんだなあ。
おとうさんは
すいかのたねを
いっぱい食べるから、
もしかしたら
めがでるかもしれない。

風の祭り

小川志歩

五十年もたった
でっかいしらかばの枝も
海草のように
ゆらりゆらりとおどる

さくらの花びらも
ちょうちょのように舞う

わたしの教室をねらって
風がふく
風は窓のドラムをたたく

今日は風のお祭りだ

春の足音

道仏さき子

耳をすましてごらん
春の足音がきこえてくる
しずかにそっと歩いてくる
よほどしずかにしないと
春がきたかこないかはわからない

でもふだんは聞こえない
いつもはしずかにねていて
夜こっそり
春をふりまいて歩く

朝見てごらん
昨日と違う感じがする
その家にはもう
春がきているのよ

よく見ていたら
神さまがころんで泣いているかもよ

こおろぎは歌う 詩：ロルカ 訳：寺嶋陸也

1. ヨーロッパの中国の歌

せんすを持った
セニョリータ
すずしい川の
橋をわたっている

フロックコートの
おじさんたちは
欄干のない橋を
ながめている

せんすを持って
ひらひら飾りの
セニョリータ
お嬢さんをさがしている

おじさんたちは
結婚してるよ その奥さんたちは
背が高くて金髪で
白人の言葉をしゃべるんだ

西のほうで
こおろぎが歌ってる

(セニョリータは
緑の上をわたってゆく)

花の下で
こおろぎが歌ってる

(おじさんたちは
北のほうへ去ってゆく)

2. セビーリャ風の小さな歌

オレンジ畑に
夜が明けました
蜜をさがしていたのは
金のちっちゃなミツバチたち

蜜はどこに
あるのかなあ？

それは青い花のなかに
イサベル。
それはあそこの
ローズマリーのなかに

(モロコシ人のための
金のちっちゃなす
その奥さんのための
真鍮のいす)

オレンジ畑に
夜が明けました

3. ほら貝

だれかがくれたひとつのほら貝

なかで歌っている
地図の海
わたしの心は
満たされる

水や小さな魚たち
影と銀との

だれかがくれたひとつのほら貝

4. とかげの歌

男のとかが泣いている
女のとかが泣いている

男のとかげと女のとかげは
白いエプロンつけて

かれらはかれらの結婚指輪を
うっかりなくしてしまった

アーイ、かれらのちっちゃな鉛の指輪！
かれらのちっちゃな鉛でできた指輪！

だれもない大空が
小鳥を気球に乗せている

太陽はまんまるな船長さん
サテンのチョッキを着ているよ

ねえ、なんとかれらは年をとっているんだろう！
なんととかげたちは年をとっているんだろう！

アーイ、泣いている泣いている
アーイ、ああ、かれらは泣いている！

5. とんまな歌

おかあさん
ぼく銀になりたいな

おまえ
それじゃとってもつめたいじゃないの

おかあさん
ぼく水になりたいな

おまえ
それじゃとってもつめたいじゃないの

おかあさん
ぼくをおかあさんのまくらにししゅうして
くれない？

もちろん！
今すぐにやってあげるわよ！